

# 札幌 市民防災

第17号

平成29年10月31日  
札幌市民防災団体連合会

発行責任者 田畑 隆二

## 平成29年度 札幌市民防災団体連合会 定期總會開催

平成29年5月29日（月）午後3時から、「札幌すみれホテル」に於いて会員団体からの代議員をはじめ、ご来賓として札幌市危機管理対策室の小田原部長以下4名の方のご臨席を戴き開催されました。

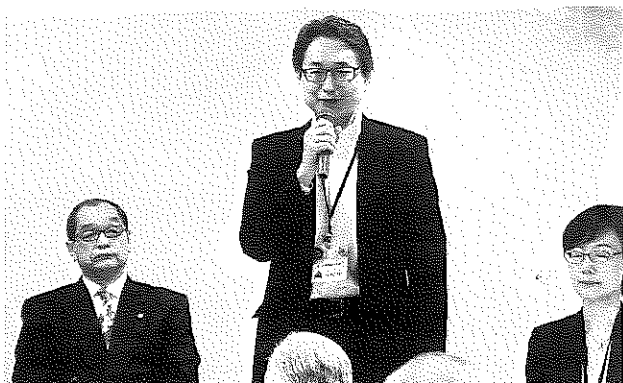
先ず田畑隆二会長から、「会も発足以来10年を過ぎ、皆さんが地域における防災活動に取り組まれている姿や、危機管理対策室の情報及び会員相互の情報交流等を、広く全市に発信するのが本会の目指すところですが、いまだ広報の発行については年2回であり、研修・講演会等も市と共催で年に1回程度の開催に留まっています。本日は皆様のご意見ご要望を頂き、よろしくご審議の程お願いいたします。」と挨拶がありました。

ご来賓の市危機管理対策室の中塚宏隆室長（4月に着任）が用務のため本席には出席できないため小田原部長からご挨拶があり、「日頃の防災活動に謝意を述べられた近年は自然災害が多発し札幌でも大災害がいつ起きてもおもてない状況にあります。札幌市ではただいま『地区防災計画制度』の資料を作成中で、近くセミナーを開催します。今後とも防災活動の一層の推進をお願い申し上げます。」とのご挨拶を戴きました。

引き続き議事に入り、議長に宮の森地区の松田健一郎氏が選出され、平成28年度事業報告、会計報告、会計監査報告に続いて、本年度の事業計画（案）、予算（案）が審議され最終的には満場一致で承認されました。質疑の中では会費の未納対策、退会の理由等についての質問があり、会長から「“防災活動情報の発信”と“未加入団体への入会推進”等を本年度事業計画の重点テーマとして取り上げておりますが、会の魅力をさらに引き上げる為に努力してまいります」との報告がありました。

最後に渡辺副会長による「閉会の言葉」で本年度総会が無事に終了いたしました。

～引き続き別室に於いて『情報交流会』が開かれ、各地区の現状等が発表され有意義な懇親が図られました。～





## 災害増加時代を生きる

札幌市危機管理対策室長 **中塚 宏隆**

札幌市民防災団体連合会の皆さまには、日頃から地域の防災活動に先進的に取り組まれており、その取組の全市への広がりにご尽力をいただいておりますとともに、札幌市の防災行政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

日本は災害列島とも言われる通り、毎年のように、各地で自然災害が発生しています。一昨年の関東・東北豪雨をはじめ、昨年の熊本地震や台風の連続的な北海道上陸、今年の九州北部豪雨などは記憶に新しいことと思います。また、今年8月には、幸いにも大きな被害はありませんでしたが、台風18号が日本列島を縦断して札幌市にも上陸するなど、災害が少ないと言われる札幌市ですが、いつ大規模な災害が発生しても不思議ではありません。

災害が大きくなればなるほど、行政による「公助」が十分に行き渡らない状況が想定されますが、そんなときこそ、町内会などの地域コミュニティによる「共助」、「地域のパワー」が重要な役割を果たすことが過去の災害からも分かっています。

しかしながら、その重要な役割を果たす町内会は、町内会加入率の低迷や役員の高齢化、担い手の不足など様々な課題を抱えているという現状があります。

そこで本市では、小中学生に対する防災教育や防災マップの配布、研修・訓練の実施などの従来からの防災活動支援に加え、新たに地域の防災活動の活性化が期待できる「地区防災計画」の導入に取り組んでいます。この計画は、地域で作成していく過程を通じて、地域住民の防災意識を醸成し、地域防災力の底上げを図るとともに、地域特性が盛り込まれたオリジナルの計画に沿って、地域コミュニティ活動の一環として防災に取り組む環境を生み出す効果が期待されます。

平成29年度は、貴会会長の田畑様のご協力も賜り、北郷新栄第一町内会ほか1地区をモデル地区として、現在までにそれぞれ計4回のワークショップを重ね、段階的に地区防災計画を作り上げているところです。

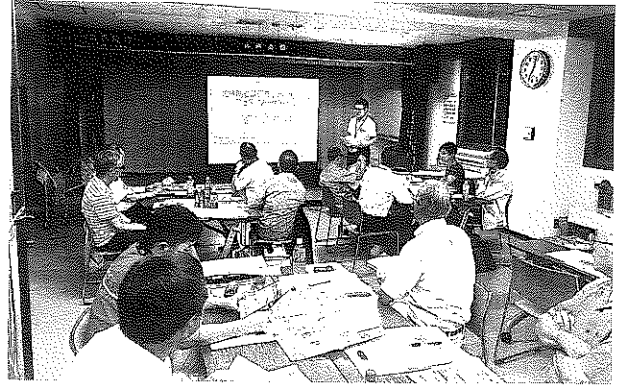
さらに、今年の9月には「札幌市防災アプリ（愛称：そなえ）」の配信を開始し、普及の進んだスマートフォンなどのタブレット端末を活用して、より簡単に防災に関する情報を入手できるようになりました。機能として、災害発生時に近くの避難場所や避難ルートを表示するものや、気象情報や地震情報、自治体からの避難情報の緊急情報、各種ハザードマップや避難場所を地図に表示することもできます。災害が起こる前に、この防災アプリを活用して、ご家庭や地域の防災活動に役立てていただきたいと思います。

災害が起きても、被害を最小限に抑えるために、引き続き市民、地域、企業など様々な主体と行政が連携・協力して支えあう防災協働社会の実現を目指してまいります。

札幌市民防災連合会におかれましては、今後益々のご発展と、会員皆さまのご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げますとともに、引き続き札幌市の防災行政に特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

札幌市危機管理対策室長 中塚 宏隆  
 防災推進担当課長 瀬川 裕佳子 氏  
 係長 早川 直喜 氏  
 担当 山本 大輔 氏

今後いろいろとお世話を成りますのでよろしく  
 お願いします。



## 町内会・町内会連合会より活動の情報をいただきました



## 自主防災訓練開始から22年を迎えて

豊平区西岡町連会長 押木 正 康

西岡地区の自主防災訓練は平成8年に第1回目を開催して以来今年で22回となりました。訓練内容は豊平消防署、消防団、日本赤十字社、赤十字奉仕団の指導のもと初期消火、応急救護、救出救助、AED取り扱い訓練等を小学校体育館とグラウンドで実施してきました。平成15年からは上記訓練に合わせ、毎年2町内会を選び近くの公園で避難誘導訓練や怪我人の救出救助、炊き出し訓練など町内住民一人ひとりが主役となった発災対応型訓練を組み入れました。

平成25年の第18回豊平区の防災訓練、第19回札幌市の総合防災訓練が開催され、これらに参加することで自主防災訓練としました。第20回は避難所運営(HUG)図上訓練、第21回は熊本地震に区から派遣された職員から避難所の運営実態と市防災協会から西岡地区における地震災害(断層帯)を学びました。第22回目となる今年、度重なる台風や記録的な集中豪雨による崖崩れや河川の氾濫から、避難命令や避難指示に対する備えの重要性を認識するため、避難場所となる学校体育館を使って避難所生活体験訓練としました。昨年より西岡地区2小学校で実施した親子の防災訓練「イザ!カエルキャラバン」のメニューを組み合わせることで、楽しくより効果的な自主防災訓練となりました。

主な訓練内容は、

避難所＝①区画割りと運営、②段ボールベッド作成と使用体験、③簡易トイレの設置と使用体験  
カエルキャラバン＝①特出品なあとクイズ、②ジャッキアップ体験、③紙食器づくり、④非常食試食



ジャッキアップ体験



防災グッズ・備蓄品の展示

## 災害時要配慮者受入れ協定の定期協議を開催

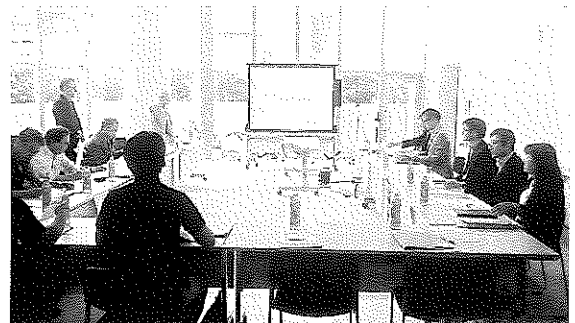
(4介護社会福祉施設等と緑ヶ丘町内会)

南円山緑ヶ丘町内会 会長 矢 萩 弘 志

去る6月19日(月)、4施設代表者等9名及び町内会防災担当役員4名が出席し、同協定に基づく定期協議を開催しました。幸い協定締結(平成28年12月6日)後、現在まで受入れの緊急事態は発生しておりませんが、災害時における対応等の再確認と相互の情報交換を行う等有意義な会議でした。しかも、このような協定の締結は市内でも初めてのケースであり、その結果が注目されるだけに綿密な連携体制の確立が必要不可欠でした。

また、札幌市中央区保健福祉部より担当課長、係長のご出席を頂き、災害発生時における区役所の福祉対策、特に要配慮者対策等に関する説明があり、その後の情報交換にも参加をして頂きました。情報交換の中では、当町内会から特に要配慮者把握の現状について説明をしました。

- 1 残念ながら、当町内会独自の把握は個人情報保護法との関係上困難なため、札幌市から提供された「避難行動要支援者名簿」のわずか9名(名簿提供同意者)についてのみ把握しており、支援の必要性等について定期的聴取り調査に止まっていること。
- 2 しかし、災害発生時には協定に規定する要配慮者(市の制度より広範囲)が施設受入れの対象であり、全体把握がない状態での対応は当初から検討済みであること。
- 3 従って、その弊害回避のため今後も地域内要配慮者の把握方法を検討したいこと。



## 平成 29 年度札幌市総合防災訓練西区開催

今年度の札幌市総合防災訓練は 9 月 1 日札幌市消防学校、発寒東小学校を会場に 60 団体、約 1200 人が参加されました。今回の訓練は札幌では災害に強いまちづくりを進めるため、地域住民や地元企業、防災関係機関などの連携強化や意識啓発等を目的に毎年、防災の日に大規模な総合防災訓練を行っております。

①札幌市消防学校では人命救助訓練等展示

②札幌市立発寒東小学校では避難所設営訓練等が行われました。今年度は特に札幌市消防学校開催地日頃消防署職員の方々々が訓練しているところであり、高層建築物からのヘリコプター救出訓練、訓練に係る災害想定は石狩中部を震源とした震度 7 札幌市直下型地震が発生、家庭の倒壊や火災が随所で発生したことに加え、電気、水道、ガスなどのライフライン機能の停止、国道を含む主要幹線道路数箇所が寸断され、孤立地域が確認されるなど、全市域に甚大な被害を及ぼしたことを想定に実施されました。

参加された地域住民はそれぞれの訓練場所で真剣に取り組んでおりました。特に今回は日本に 2 台しかないという防災訓練車が札幌市にはじめてお目見えし、多くの方々々が体験されておりました。札幌市防災センター（白石区）では体験できますが今回は過去、日本で発生した「関東大震災」「阪神、淡路大震災」や「東日本大震災」などの再現地震や、今後発生が予測されている想定地震の「揺れ」が模擬体験できるとの事で札幌市民は今迄震度 7 という体験はしておらず、大人も子供も地震のおそろしさを体験しました。参加者には外国籍住民も参加し建物からの脱出や応急手当、初期消火訓練に地域住民と一緒に参加し、いざというときに助け合える存在であることを確認しました。

## 市長挨拶

皆さん、お疲れ様でございました。

災害対策本部長の札幌市長・秋元克弘でございます。

今日は大勢の皆さんに、札幌市の総合防災訓練にご参加をいただきました。本当にありがとうございます。陸上自衛隊をはじめ、北海道警察、各行政機関の皆さん、そして、地域の皆さん、災害対策の協定を結ばさせていただいている多くの団体、企業の皆さん、お疲れ様でございました。

今日は札幌で震度 7 という直下型の大きな地震をし、市内各所で火災や建物の倒壊、そういった被害が多数出ている。こういう想定の中で防災訓練を実施させていただきました。

倒壊建物からの救助や救護といった、まさに実践さながらの様々な訓練、日頃の訓練の成果という事をご披露くださりまして、本当に心強く思っているところでございます。

今回の防災訓練の大きな目的は、2 つございます。

1 つは、行政機関を始めとした関係機関の迅速な連携、スムーズな連携を進めていくということ。そして、こういった、行政機関での防災力を高めていくということはもちろんなのでありますけれども、それぞれの、市民の皆さんが、自らの命を守る。そして、地域の皆さんで助け合っていく、共助ということを意識をしていただくということがございます。そういう意味で、地域の皆さん、今日は小学生の皆さんにも避難所の開設、そういった訓練にも参加をいただきました。

災害は無いにこした事はないわけですが、昨今、日本国内でも大規模な地震、そして大雨による災害というものが頻発しております。

そういう意味で、いつ起こるか分からない、そういった災害への備えをいう事を、しっかりと私も市民の皆さんと共に、その備えをしていかなければならないという事があります。何より重要なのは、どういう事が起こる可能性があるのかということイメージをし、想像し、そして、自らがどのように行動していかなければいけないのか、ということ、日頃から心構えを持って、その対応していくということが何よりも重要であろうというふうに思います。



秋元市長



応急避難所及びトリアージポスト設置運用訓練

そういう意味では、今日の訓練、非常に迅速に、スムーズに行われたのではないかというふうに思っております。

ぜひとも、これを機会に、関係機関の皆さんは基よりでありますけれど、市民の皆さんも、こういった災害への備え、日頃から心構えを持っていただければと思います。

多くの皆様の参加に改めて感謝を申し上げまして、御礼と講評といたします。ありがとうございました。

## 平成29年度 札幌市総合防災訓練に参加して

八軒まちづくりセンター所長 高 栗 仁 子

札幌市では、防災の日の『9月1日』に大規模な総合防災訓練を各区持ち回りで実施しており、今年度は、西区消防学校にて行われました。

震度7の直下型地震を想定した災害に対応する15種類の訓練のうち、八軒連合町内会は、発災対応共助訓練（マンション脱出、応急手当訓練）と応急救護所及びトリアージポスト設置運用訓練に参加し、万一に備えました。

マンションの脱出では、実際にベランダのドアを蹴破り、破片がドアの縁に残ることなどを体験。取り除いてから避難しないと大変危険です。八軒はマンションも多い地域であり、マンション自治会の皆さんは、特に熱心に参加されていました。

また、トリアージポストでは、救助したケガ人を重症度に応じて救命の順番を決めて対処する訓練に参加。負傷者となり、臨場感あふれる応急救護所を体験しました。秋元市長は、「災害時にどんなことが起こるか想像して心構えを持つことが大切」と講評で述べておりましたが、今回の訓練はまさに災害をシュミレーションするまたとない機会だったのではないのでしょうか。

八軒まちづくり協議会では、今年度から本格的に防災に取り組んでおり、防災マップ作成やDIGの実施を予定しています。このような取り組みを通じ、いざというときに助け合える地域づくりを目指しています。



## 日頃からの準備、心の準備

札幌市立発寒東小学教頭 松 村 倫 宏

9月1日に札幌市総合防災訓練が開催されました。私たち発寒東小学校5・6年生は、地域の皆さんと避難所設置訓練に参加しました。4つのグループに分かれて、体育館での避難スペースの設置訓練、給水車からの飲料水搬入訓練、支援物資搬入訓練、備蓄物資搬入訓練を体験しました。私は、避難スペース設置訓練に参加しました。体育館にブルーシートを敷き詰め、避難スペースを設置しました。思っていたよりも一人当たりのスペースは狭いことに驚きました。日本各地で発生した災害によって避難所生活を送っている方々の不自由さを考えると、胸が痛くなりました。

避難所設置訓練に続き、消防学校への避難訓練を行いました。車椅子を使って避難する方の補助をすることも体験もしました。歩道や車道の舗装のでこぼこや段差に車椅子の車輪が引っ掛かり、なかなかスムーズに押すことができませんでした。

消防学校では、防火用品の展示ブースや特殊車両を見学しました。なかでも、起震車が印象的でした。起震車は、日本で実際に発生した地震の揺れを体験できる車両です。学校でも地震の避難訓練は経験していましたが、実際の強い揺れの中では思うように体を動かすことができず、避難することの難しさを感じました。

災害は、いつ起こるか分かりません。できることなら、起きてほしくはありません。もしもの時に備えて、日頃からの最低限の防災用品の準備と心の準備をしておくことの大切さを実感する貴重な体験ができました。

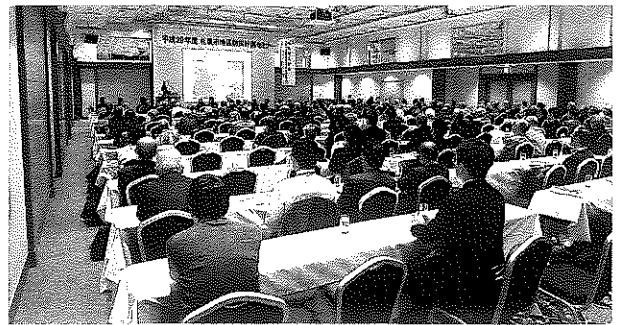
防災訓練車



## 「地区防災計画」セミナーの開催

平成29年10月16日（月）、札幌グランドホテルに於いて札幌市危機管理対策室主催による「地区防災計画」セミナーが開催され、約160人が参加しました。

最初に4月に着任された、中塚宏隆室長からの開会挨拶に合わせ「地区防災計画」の概要と、現在札幌市では2地区をモデル地区として策定に取り組んでいるところです。皆様には本日のセミナーを是非地区の皆様にもご理解いただけますようご協力をお願いします。



引き続き、内閣府政策統括官（防災担当）参事官補佐 山口徳彦氏から「平成25年に『災害対策基本法』の改正により、地区住民が『地区防災計画』を策定し、市町村へ提案できる制度」が施行された経緯と、「阪神・淡路大震災では、倒壊した家屋から救出された人の割合が、《約8割が家族（自助）・住民（共助）で約2割が消防・警察・自衛隊（公助）》という調査結果になり、自助・共助（近所付き合い）の大切さが話されていました。

続いて、『地区防災計画』～共助を高め、災害から命を守る計画～、のテーマで、跡見学園女子大教授 鍵屋一氏による講演で、この計画は「防災活動を通じて、人と人のコミュニケーションをより強化し、つながりを深め、信頼の絆も深まり「地域共助の計画」でもあり、これからの防災は『魅力増進型の防災へ…』と話されました。」

## 平成29年度 第1回役員会の開催

上記の「セミナー」に引き続き会場を「かでの27」に移動して、私達「市民防災団体連合会」の役員会を開催しました。

主な議題は先に行われた総会の際の質疑で出された《未納団体・退会・会員増強策をはじめ、各地区の情報交換・発信策、〔幹事会の定例開催・広報活動〕等及び魅力ある事業活動や、会の運営（事務局体制）》など、多岐にわたる意見交換が行われました。

### 編 集 後 記

朝夕めっきり寒く成り、日も短かく成りましたが、会員の皆様は如何お過ごしでしょうか。今年も日本列島災害も多く発生し、沢山の方が災害にあわれ、多くの方が亡く成りました。心よりご冥福をお祈りするとともに一日も早い復興を重ねてお祈りします。広報は会員皆様の情報交換の場でもありますので是非町内会活動を広く皆様にご紹介して下さい。ご一報お待ちしております。又、多くの方々市民防災連合会に加入していただきたいと思っておりますのでご連絡お待ちしております。

地域防災計画セミナー参加者 160人 10月16日グランドホテルにて

広報部長 渡辺 恵美子 FAX・TEL 011-851-9583番

印刷所 北晃社 斎加印刷所  
札幌市西区八軒1条東5丁目  
電話 011 (631) 1271